

第3回高浜市こども貧困対策会議 議事要旨

日 時：平成29年5月12日（金）
16時00分～18時00分

場 所：いきいき広場2階ホール

委 員：資料のとおり

欠席委員：春田とし子委員
：杉浦厚子委員

1. 開会

2. 前回の議論を踏まえた対応方針等について

資料2に記載の事項について、それぞれ意見交換がされた。主な発言の内容は、以下のとおり。

(1) 「こども食堂支援基金」の寄付の用途及び恒常的な確保に関すること

(2) ステップの利用が困難な子どもたちへのアプローチの方法に関すること

○長期休暇時に兄弟同伴でのステップ利用についての提案があった。これまでの利用状況はどうか。

○ステップの利用者の中には、兄弟の面倒を見る必要があるから参加できない利用者がいたため、昨年度の長期休暇中には兄弟同伴での利用を促し、数名の利用があった。小学生のステップ利用については、中学生でなければ参加してはいけないというわけでもない。兄弟の同伴を許可することにより、利用者は勉強ができる環境ができ、また、兄弟も楽しそうに過ごしていた。兄弟以外に、友達を連れてくる事例もあった。ステップの利用対象外の友達の場合は、すぐ帰ってもらうようなことはせず、来た当日は体験をさせた。利用対象者について説明し、理解いただき、次回以降の参加は不可としている。

○ステップの利用勧奨について、担任が封書に入れて実施しているが、トラブルになりかねないので、保護者への説明の仕方を指導してから、保護者に渡すようにし、慎重に対応している。また、南中はいきいき広場までの距離的なこともあって参加しにくくなっている。利用勧奨であるが、地域から参加を促す道もあるといいのではないか。個人情報の問題もあって難しいかもわからないが、地域の中でつながって、地域から勧誘する方法もあると良い。

○ステップに参加する生徒の中で、チラシを配っていない生徒がすでに参加している。ほっとスペース、こども発達センターからつながったケースである。あすたかの利用者は一人親家庭の小学生、ステップの利用者は生保・就学援助受給、不登校、特別支援等の中高生と参加資格の違いがあり、そこにステップとあすたかの壁があるのは事実。

○民生委員との連携について、次回報告いただきたい。兄弟同伴での利用実態はどうなっているのか。中学生は勉強ができ、兄弟は居場所が確保できるということで、世帯の支援につながれば支援をしていきたいと考える。今のところ問題なく進められているようだが、スタッフの不足等の課題はないか。

○生徒の座席隊形とサポーターの配置を工夫しているので、スタッフの人数は大丈夫である。小学生の支援についても、小学校教諭を目指しているサポーターがいるので対応は可能である。参加の中高生の数が増えているので、スペースに問題が生じていると考えている。今後は、使っていない会議室の利用も検討していく。

○兄弟同伴利用について、事務局の考えはいかがか。

○ステップの申請は、世帯を含めた支援が欲しいと手を挙げていただいたものと考えており、兄弟同伴での利用を認めていきたい。

(3) 生徒の情報共有のための仕組みの構築等に関すること

○学校と運営者の情報共有について意見をいただきたい。学校から提供される情報には個人情報が多く含まれている。運営スタッフはボランティアを含め守秘義務が発生するので研修を行ってほしいと考える。学校とステップの情報共有、また保護者との情報共有についてどう考えるか。

○生徒のリーダー研修で、ステップのスタッフに来ていただいている。ステップのスタッフと学校の職員が知り合う機会は重要で、学生スタッフと職員が話すことで、学生スタッフの質の高さを認識できた。土曜日のステップでの生徒の様子を大学生から聞けるなど、こうした交流の機会を学校が開催するのは良いが、頻繁に会議を開催するのは難しいと考えている。

○教職員と学習支援スタッフの交流の機会を持つことは可能なのか。また、子ども達は先生がステップに見学に来ることを良しと考えているのか。子ども達の意見を尊重してほしい。

○学生サポーターが学校を拝見するのは良い機会であると思う。例えば学校行事を学生サポーターが見学するなど、すでにあるものを使って、より良い形で連携できればと思う。

○保護者との情報共有について、運営者はどのように考えているか。

○保護者の見学について、生徒の集中力が欠けるなどの課題があり、生徒の意思確認が必要と考える。現在、保護者との情報共有は、生徒を通じて「ステップ通信」を配布しているが、今後は、メールリストでの配布を考えている。保護者にステップの様子が伝わっていないため見学したいという希望があるのかもしれない。

○あすたかでは、昨年度送迎があったため、送迎時に保護者との情報共有を行っていた。今後は、電話連絡、面談を行う等を考えている。

3. 平成28年度の子ども健全育成支援員の活動実績について

資料3に記載の事項について、それぞれ意見交換がされた。主な発言の内容は、以下のとおり。

○資料3ページ、上級学校中退者・職場離職者の母数1,499人の対象は何か

○中学校の1年から3年までの在学生徒数。

○不登校を経験した子は中学校卒業後の道が狭くなっており、リスクも高い。母子・父子家庭の不登校の割合が高くなっている。母子父子相談員と連携しトータルなサポートが必要と考える。ステップ、行政、学校、家庭で情報共有を図り、ステップの中でも支援をしていきたい。

- 傾向として、支援している子は男性が多い。男性が自分で将来を切り開けず、自立していない。女性の方が強くたくましいと感じる。
- 不登校の資料を見ると、3年間で不登校が減ってきている。ステップの評価指標になるものではないかと理解した。子ども育成支援員が支援する28人は、困難な事例の支援と理解している。ステップ・あすたかで育った子どもたちが高校を卒業し、就労に向かう中で、困難な事例と、どのような歩みの違いをみせるのか。これを対照することによって成果がクリアになっていくと考えられる。今後も、こうしたケースのご報告をいただきたい。
- 現在、不登校であった生徒が、今年4月より学校に通えている。これまでに様々な先生や支援員の支援が関わったことにより、大きな成果につながったものと考えている。
- 学習支援の目標としても「社会的自立」が一番重要であると考えている。とりわけ学習支援が、学力向上、高校進学までが目的となって展開している事例が各地である。学習支援によって高校に進学し、高校で不登校になってもリカバリーし、卒業し、自立する。こうしたプロセスが描けて成果といえるのではないか。一体的な問題として捉え、子ども貧困対策会議で議題にしていく。こうした報告があったことは意義があると考えている。
- 社会的な自立について、どのような評価指標を作っていくかが課題である。
- 中学校が進路指導をきめ細やかに行い、生徒が意欲を持って高校へ進学し、高校で何をやりたいかを意識しているがゆえに、先ほど説明があったとおり、公立高校では中退もせずに、続いていくケースが多いのではないか。定時制高校の中退が高くなってしまふのは、全日制を落ちた生徒のセーフティネットになっていて、モチベーションの面で低くなり、「やめてもいいか」という意識になってしまうことが結構あるのではないか。中学校でのしっかりした進路指導により、ミスマッチが少ないことも、中退が少ないことに対する成果であると捉えている。

4. 平成28年度の「ステップ」の実績と今年度の展開について

資料4に記載の事項について、それぞれ意見交換がされた。主な発言の内容は、以下のとおり。

- 参加率が実際に低いのか評価が難しい。生活困窮だから必ず参加しなければならないということではなく、自分なりの勉強や自立している生徒には必要ない。本当に必要な生徒の数が、170人の対象者のうち何人なのか判然としない。全国的にも、学習支援事業にどういった人が参加した方が良いかは手探りの状態。アンケートにある参加頻度の低い生徒は、参加した方が良い生徒である。参加したいができないのか、参加したくないのか。参加したくない理由が勉強したくないという事であれば、こうした人にどう足を運ばせるかが重要。
- 参加頻度の低い生徒のアンケート結果は、登録のない134名分と間違えることのないように説明を丁寧にする必要がある。また、134名がなぜ登録しないのか、別途調べた方がよい。ニーズがどのようにあるのか、つかむ必要があると思う。170人の対象者に対して、36人の参加は、他の自治体と比較してそれほど低くないと思う。他の自治体との比較も、してもよいのかもしれない。アンケート結果の報告の中で、就職を考えているのでステップに参加しないとの話があったが、就職に対して必要な学力、就労を継続するのに必要な学力がある。就職するから参加しないというの

は、実態としては、そうでないと思う。就職希望者に対する学習支援とは何であるのか。そうしたアプローチも必要と感じた。

- ステップの参加者の中で就職につないだ子もいるが、ほとんどはステップに参加しない子を就職させることになる。就職者は小中学校時代に不登校を経験したことが多い。不登校の子が社会に出ようとしたとき、最初に困ることは、履歴書を書かせると漢字が書けない、書くことに対して非常に苦手意識を持っていることである。履歴書を書くための学歴をつけておく必要があると感じた。また、運転免許を取ることに1つを取っても、標識を覚えられないなど、「もう少し勉強をしておけば良かった」という報告を受けることがある。
- 社会生活を送るのに必要な最低限の学力、働き続けるための学力をつける必要がある。また、免許がある事で就職先の選択肢も広がるため、免許取得のサポートも必要ではないか。

5. 平成28年度の「あすたか」の実績と今年度の展開について

資料5に記載の事項について、それぞれ意見交換がされた。主な発言の内容は、以下のとおり。

- あすたかでは、何人の対象者のうち18人の参加者があったのか。
- 小学校4～6年のひとり親生徒で、164名の対象者である。
- 高浜高校では学生サポーターを部活動化した。今まではボランティア（有志）でやっていたこともあって、学校としては強く指導できなかった。これを部活動化して、学校の活動の一環として行うこととした。個人情報保護とか、あるいは、活動にメリハリをつけることの課題は、子どもの指導にメリハリがついていないのではなく、指導者の方のメリハリもついていないということもあり得るので、厳しく指導をして欲しい。彼らの中で、保育士、幼稚園・小学校教諭を希望する者がいることから、「仕事とはこういうものである」ということを教えて欲しい。もう1点要望がある。今年度は仕方がないかもしれないが、ボランティア部の中には、市外の生徒もいる。あすたかを実施している翼小学校から駅までは距離がある。冬などは危険を感じる。叶うことであれば、いきいき広場とか公共交通の便の良い場所で実施して欲しい。また、実施時間が短縮されたということであるが、生徒たちも、昨年度並みの時間があると、はりきってやれるのではないか。来年度考えていただければありがたい。
- 駅まで20分はかかること、また、翼小学校で行うことで、翼小学校の参加児童が特別感を持つことはないか、参加率が心配になる。他の小学校の参加においても、送迎の都合もあることから、ご検討いただければありがたい。
- 実施場所は今年度の対象者が翼小学校の児童が多いということで、そうさせていただいた。今後の対象者の状況を踏まえて、来年度の検討をしていきたい。時間については、3時間から2時間にしたが、4年生、5年生、6年生では3時間は長かったということもあって、時間を短縮した。今年度の実績を踏まえて検討する。
- 小学生の視点から考えれば、生活の範囲のところで学習支援が受けられるのが一番良い。学生サポーターのことを考えるということだが、例えば、学生サポーターの足の確保をするということを検討していただければいかがか。
- 学生サポーターは、昨年度の9月時点で、実数は32名であり、高校生が24名、大学生が7名、

社会人が1名となっている。高校生24名のうち高浜高校生は21名となっている。あすたかに通う子どもたちは、時間をかけてのサポートが必要であり、そこに時間を取られてしまった。高校生のサポーターの支援力がかなり必要と感じており、高校生のサポーターが戦力となるような研修、支援をしていくことが、重要であると感じている。

- 戦力の中身であるが、ただ勉強を教えればよいというものではないので、どういう力が必要なのか、ぜひ研究していただきたい。先ほど、個人の指導計画、学習計画を作っていくという説明があり、とても良いことだと思う。どういう計画を作るかが大事であると思うので、次回、こういう形式でやっているという報告をいただきたい。また、計画を立てる時に、学校の先生たちとの情報共有の中で、どういう計画を作るといいのか、ぜひご協議いただきたい。学校側での指導とあすたかでの指導と一致させていくことが重要だと思う。学校の方もご協力いただければありがたいと思う。
- 学習支援が学力向上に傾くのではなくて、最終的には社会的自立が一番大きいという意見に同感である。あすたかの中で会話の時間を設けているが、コミュニケーション能力をつけるという点で、大切であると思っている。面と向かって話ができるという、これほど大事なことはない。学校が求めていることは、まさにこのようなことである。「社会性を培う」、「生活習慣をしっかりと立て直す」、成長したと感じる点で一番多かった「生活のリズムを整える」など、方向性は学校の求めるもので、大変ありがたいと思っている。
- ぜひ、今年度の指導計画、学習支援の計画づくりに、学校との情報共有を進めていただき、準備いただきたい。

6. その他

(1) 「すこやかサタディ」について

資料6に記載の事項について報告があり、質問・意見はなし。

7. 次回の開催について

大村会長から、本日会議の中でいただいた意見、提案等について、事務局で整理して、今後の事業に活かしていただくとともに、次回の会議に向けて準備いただきたい。

(以上)